

研究を止めるな！

奈良文化財研究所では、研究成果の共有・検討の場として多種多様な研究会を開催し、全国から多くの方にご参加いただきました。しかし、新型コロナウイルス感染症のまん延によって様々な活動が制限されていく中、こうした研究会活動も大きく影響をうけることとなりました。今回は、こうしたコロナ禍において、いかに研究活動を続けてきたか、ご紹介します。

古代官衙・集落研究集会　古代官衙・集落研究集会(官衙研)は、全国の官衙や集落に関心のある考古学・文献史学・建築史学・歴史地理学など多様な研究者が集まる研究集会です。1996年から毎年研究集会を開催してきました。2020年には官衙研の原点ともいえる「古代集落の構造と変遷」をテーマとする連続企画を立ち上げ、研究会を盛り上げていこうとしていたその矢先、緊急事態宣言が発令されました。研究会の開催可否についても議論を重ね、2020年12月には報告者と事務局のみの完全オンライン配信研究会を実施しました。研究会は無事終了し、「多くの研究会が中止・延期になる中、Web上ででしたが一堂に会する良さは十分得られた」といった、温かい感想も頂戴することができました。当日の討論では、参加者からメールでの質問を受け付け、さらながら「おたより紹介のコーナー」の様相を呈していたのも、今では懐かしく思い出します。

2021年からは、現地参加とオンライン配信を併用した研究会を実施しています。遠方にお住まいの方、子育て中の方、日々の業務と重なった方など、以前は研究会への参加が難しかった方が、オンラインでご参加いただけたのもありがたいことでした。



第24回古代官衙・集落研究集会の様子

古代瓦研究会　2023年2月4・5日には、第22回古代瓦研究会シンポジウムを開催しました。本研究会は地方公共団体の文化財専門職員や大学・博物館等の研究者を主な対象に、古代の瓦に関する多分にマニアック(?)で奥深い研究発表と討論を繰り広げてきました。その最大の特徴は各回テーマに沿った実物の出土瓦を会場に持ち寄り、参加者がそれを手に取りながら喧々諤々の議論を交わすところあります。

こうした「売り」ゆえに、この数年は研究会のあり方が問われる厳しい状況にありました。新型コロナウイルス感染症拡大の兆しがみえ始めた2020年2月の第20回研究会の開催後、2021年は中止、2022年の第21回研究会はオンライン配信のみでの開催となり、本研究会の「売り」を押し出せない状況となっていました。本年は感染拡大防止のための十分な対策をおこなった研究所での開催とオンライン配信の併用により、実物資料を会場に持ち寄る方式をようやく再開することができました。

研究会のオンライン配信の有効性はこの数年で大きく認識されました。いっぽうで多くの方が実物資料を手に取り議論する場の提供は本研究会の大きな使命であり、こうした方法は古代瓦の研究推進にとっても極めて重要です。古代瓦の実物に触れ、それを作り、運び、葺き、見上げた人々と同じ体感を得て議論する。こうした感覚の共有はオンラインではまだまだ難しいものです。こうした実感をどうすればオンラインで伝えることができ議論を深められるのか。新たなハイブリッド方式による古代瓦研究会の実施を通じて、今後はこうしたことも検討していきたいと考えています。

(都城発掘調査部 川畑 純・道上 祥武)



第22回古代瓦研究会の様子